

吉野復興大臣の宮城県訪問ぶら下がり会見録  
(平成29年8月30日(水)12:30~12:34 於)宮城県気仙沼市)

1. 発言要旨

今朝、ホテル観洋の阿部女将のお話を聞いてきました。やはり一番はまず被災をされた方々をきちんと受け入れて、支援をして、その体験をきちんと「語り部」という形で観光客の皆様方に知らしめている。

今、復興庁として一番戦っている相手は、風化と風評被害、この二つの大きな風なんです。この二つの大きな風に、阿部女将が一生懸命頑張っていて戦っている姿を見て、本当に感動しました。

また、ホテル業というのは、取引業者が物すごく裾野が広い業種なんです。お米屋さんもいれば、魚屋さんもある、お肉屋さんもあります。東日本大震災で、お店がなくなってもプロですから、電話1本で商売ができる。お店は津波でなくなっちゃたけども、きちんと商売をお互いに続けることができる。ここのところが一番、私自身も被災している関係上、そのきっかけを、いち早く企業として与えてくれたところが、やっぱりすばらしい経済人だなというふうに思いました。

2. 質疑応答

(問) 今日こちらで水産加工業関係者の方などと意見交換されましたけれども、どんな意見があって、今後復興庁として、どういうふうに取り組んでいくかというところはどうですか。

(答) 一番はまず労働力不足のところで、外国人技能実習制度を活用し、あと、生食なんかはまだ認められないところもあります。

(問) 技能実習制度の対象業種の拡大を水産加工業の中でもということですか。

(答) そうです。あとは、金融です。ここまで立ち直ってきましたけど、売上げが本当に伸びない中で、借金の返済時期がそろそろ来ているので、その辺をきちんと支援策を取ってくださいとか。あとは、輸出や魚市場の運営の話ですね。売上げが少ないものですから、手数料収入が入らない。だから、値上げもできない。また、HACCP対応で魚市場の経費も前よりは掛かるといった話がございました。こういう中で新たな支援策、これはちょっと今、支援策はございませんので、水産庁とよく連携しながら考えていきたいと、このように考えております。

(以 上)